福島県双葉町

広報ふたば

2016年
8月
災害版No.63

【表紙写真】どれくらい入っているのかな？（町立小学校授業公開）

平成２８年８月１日発行　（編集・発行）福島県双葉町いわき事務所　秘書広報課

渡邉一成選手
リオデジャネイロオリンピック
自転車競技出場壮行会

6月18日、いわき市植田町においてリオデジャネイロオリンピック日本代表選手として出場する渡邉一成選手の壮行会が開催され、県内外に避難している町民の皆さんなど約170人が集まり、渡邉選手を激励しました。

渡邉選手は、会場に響く大きな拍手の中、堂々とした姿でステージに登壇しました。

初めに伊澤史朗町長が「渡邉選手の強さは、幼い頃からの双葉町での生活、海に向かっての練習だと思っています。持っている力を存分に発揮して、自分らしい走りをしてきてください」とあいさつしました。

続いて、渡邉一成後援会長の岩城光英様が「双葉町、そして福島県の皆さんに勇気を与えてもらえるよう、本番まで鍛えぬいて頂上を目指してほしい」と激励のあいさつを述べました。

甥の遠藤悠太郎くん、優真くん、姪の山田こころさん、莉乃ちゃん、後援会の佐川ひろ子さんより花束が贈呈され、次に、町民の皆さんや町立学校の子どもたちなど、たくさんの方々が応援メッセージを寄せた日章旗を半谷淳教育長、渡邉由起子双葉北小学校校長より手渡されました。

渡邉選手の活躍を祈念して岩本久人双葉町議会副議長の音頭で乾杯。詰めかけた皆さんが激励の言葉をかけ、握手や記念撮影をお願いすると、渡邉選手は笑顔で応じていました。

応援アトラクションとして、標葉せんだん太鼓保存会の皆さんによる演奏が始まると、渡邉選手や会場の皆さんは勇壮で懐かしい太鼓の音色に聴き入っていました。また、渡邉選手応援メッセージ動画が上映され、たくさんの方々からのメッセージのほか、家族の皆さんからのサプライズメッセージが流れると、渡邉選手はとても驚いた様子でした。

最後に、渡邉選手が「双葉町の皆さんにはいつも背中を押してもらっています。今度は自分が皆さんに恩返しをしたいと思っていますので、悔いの残らないレースをします」と力強い決意を述べると、会場からは大きな拍手と声援が沸き起こりました。

岩城光英後援会長のあいさつ

双葉町から激励金の贈呈

花束贈呈

日章旗の贈呈

渡邉選手の健闘を祈って乾杯

渡邉一成選手のご活躍をお祈りいたします！

標葉せんだん太鼓保存会の皆さんによる演奏

町民の皆さんの握手や写真撮影に笑顔で応じる渡邉選手

第３１回　オリンピック競技大会（２０１６/リオ）
自転車競技　男子ＫＥＩＲＩＮ
ファーストラウンド　８月１６日（火）２２：１８～２２：３９（予定）

町民の皆さまへ

夏真っ盛りとなり、いよいよリオデジャネイロオリンピックが8月5日から開幕いたします。

6月18日、いわき市植田町において、自転車競技日本代表として3度目のオリンピック出場が決定した渡邉一成選手の壮行会を後援会とともに開催いたしました。壮行会では、渡邉選手に町民の皆さまの手書きメッセージ入りの日章旗を手渡し、応援の映像や標葉せんだん太鼓保存会の皆さんによる力強い太鼓の演奏でエールを贈りました。渡邉選手は8月16日に行われる男子ケイリン競技に出場します。持てる力を十分に発揮し、素晴しい走りができるよう祈りながらテレビの前で応援したいと思います。

渡邉選手と双葉南小学校、双葉中学校の同級生で、スパリゾートハワイアンズのダンスチーム「フラガール」のリーダーであるモアナ梨江（本名・大森梨江）さんが7月末のステージを最後に退団されました。梨江さんにはお忙しい中、避難所となっていた埼玉県加須市の旧騎西高校を2度もご訪問いただき、素晴らしいフラダンスをご披露いただきました。ご自身も避難生活を送る中、町民の皆さまのことを気遣い励ましていただきました。心から感謝と御礼を申し上げ、今後のご活躍をお祈りいたします。

6月22日には、内堀雅雄福島県知事に対しまして、震災と原発事故の記録と教訓を後世に伝える「アーカイブ拠点施設」を中野地区復興産業拠点に設置するよう要望書を提出いたしました。

6月24日には、いわき事務所において第1回の双葉町復興町民委員会を開催し、委員の方々に委嘱状を交付いたしました。委員の皆さまには町民の生活再建や帰還への課題、町内の復興拠点の整備などについてご議論いただき、年内をめどに復興まちづくり計画（第二次）を策定していきたいと考えております。

また、町の復興に向けて、先月号でお知らせしました町内拠点と国道6号、常磐自動車道の（仮称）双葉インターチェンジを結ぶ復興シンボル軸の事業説明会や町道山田郡山線道路改良事業説明会を国、福島県とともに開催し、関係者の方々にご説明いたしました。早期に整備が進められるよう皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

8月2日から8日まで、半谷淳教育長を団長に、希望された14人の中学生がニュージーランドで海外研修を行います。外国の自然や文化、社会に触れながら国際感覚を培い、コミュニケーション能力を身に付ける有意義な研修となるよう期待しております。

暑さの厳しい時節です。熱中症など健康管理にはくれぐれもご注意されますようお願いいたします。

早いもので、今年もお盆の月に入りました。ご先祖様、亡くなられた方々に対しまして心からご冥福をお祈り申し上げます。

双葉町長　伊澤　史朗

アーカイブ拠点施設の誘致を県に要望

6月22日、伊澤史朗町長が内堀雅雄福島県知事に対し、中野地区復興産業拠点へのアーカイブ施設の立地を求める要望書を提出しました。

アーカイブ施設は、震災と原発事故の記録・教訓や被災地の復興を広く国内外に発信する学びの場としての交流施設となります。

要望書では、福島第一原子力発電所の立地町における効果的な情報発信と、今般の複合災害によって最も深刻な被害を受けた当町の復興加速化のため、中野地区復興産業拠点への立地を強く県に要望しました。

双萩会より証言集の寄贈

７月５日、宮城県に避難している皆さんの自治会、双萩会の前会長の阿部利一さん、現会長の笠原悦夫さん、会員の目黒とみ子さんがいわき事務所を訪れ、双萩会で発行したわたしたちの証言集「双葉町を襲った放射能から逃れて」１０冊をご寄贈いただきました。

証言集の作成にあたっては、目黒さんが４４人の方々の生の声を聞き取り原稿を作成し、みやぎ民話の会（小野和子会長）や一般社団法人愛知揆一振興会のご支援をいただきました。実際に体験した東日本大震災と原発事故によりふるさと双葉町を追われる無念さなどがつづられています。

伊澤史朗町長は「貴重な証言を集めて立派な証言集が出来あがり関係者の皆さまに深く感謝申し上げます」とお礼の言葉を述べました。

第１回双葉町復興町民委員会を開催しました

― 双葉町復興まちづくり計画（第二次）の策定に向けて ―

◇第１回双葉町復興町民委員会

６月24日、平成28年度第１回双葉町復興町民委員会をいわき事務所で開催しました。

本年度の委員会については、平成25年６月に策定した「双葉町復興まちづくり計画（第一次）」が４年計画となっており、本年度見直しを行うにあたって、委員の皆さまからのご意見を計画に反映させるために設置したものです。

第１回委員会では、冒頭、伊澤史朗町長から委員35人とアドバイザー１人に委嘱状が交付された後、伊澤町長が「町の再興に向けた取り組みは今後も続くが、生活再建や町民コミュニティの維持発展に向けた取り組み、さらに町内復興拠点整備に関わる取り組み等について、建設的なご意見をいただき、これを計画案に反映させていきたい」とあいさつを述べました。

この後、委員長に田中清一郎さん、副委員長に岡村隆夫さんが選出され、引き続き町からこれまでの町の復興計画と、委員会での大まかな検討事項について説明したのち、質疑応答と意見交換が行われました。

◇第二次計画の策定イメージ

第一次計画を改訂し、その後策定した町の復興に係る各種計画を取り込みながら、双葉町への帰還に向けた課題等の整理を行う予定です。

◇計画案の検討体制

・「復興まちづくり計画推進会議」
副町長と全課長で構成される庁内組織で、課題の整理と素案の作成などを行います。

・「復興まちづくり計画推進会議幹事会」
役場の係長クラスの中堅・若手職員で、素案作成のための具体的な議論を行います。

・「有識者会議」
復興地域におけるまちづくり、都市計画、住環境、コミュニティ、放射線等の知見を有する有識者が参加し、専門的な議論を行います。

・「双葉町復興町民委員会」での議論
今回委員会の中に、第一次計画の２本の柱である「町民一人ひとりの復興」と「町の復興」に対応する形で、「人の復興部会」と「町の復興部会」を設置し、テーマを絞った重点的な議論を行った上で、委員会として計画案の検討を行います。

◇今後のスケジュール

今後秋にかけて委員会と部会をそれぞれ３回程度ずつ開催した上で、委員会から計画案を答申いただき、町議会との協議を踏まえた上で、年内を目途に「復興まちづくり計画（第二次）」を決定する予定です。

双葉町後継者結婚対策協議会委員を委嘱

双葉町では、６月２３日に双葉町後継者結婚対策協議会委員委嘱状交付式を開催しました。

初めに伊澤史朗町長から「町の後継者の維持、存続は非常に重要です。町民の皆さんが全国に避難している状況の中、事業の実施は困難もあると思いますが、委員の皆さんの活動に期待いたします」とあいさつした後、７人の方々に委嘱状を交付しました。

今後、双葉町の後継者が希望を持ってそれぞれの生活に取り組めるよう、情報交換やイベントの開催などの活動を実施するため協議を行っていきます。

会　長	福田　一治	監　事	長谷川　梨沙香	委　員	小野田　真澄
副会長	相樂　比呂紀	委　員	半谷　富子		
監　事	荒木　恭子	委　員	中谷　祥久		

福島県復興公営住宅（第５期）の募集について 福島県

福島県では、原子力災害により避難指示を受けている方が入居できる復興公営住宅を4,890戸整備します。このうち、第５期分及び第４期から引き続き募集を行う分の入居者を募集しますのでお知らせします。

申込み期間 平成２８年６月２７日（月）～平成２８年８月３１日（水）※当日消印有効

第５期として今回募集する団地 ※新規団地の募集は第５期募集が最終となります。

所在地	団地名	住戸形態	戸数	入居可能時期（予定）	入居対象市町村
いわき市	勿来酒井	集合住宅	７７戸	平成２９年度後期	富岡町・大熊町・双葉町・浪江町
		木造長屋	１０戸		双葉町
	北好間（北）（ペット可）	集合住宅	５１戸		富岡町・大熊町・双葉町・浪江町
	北好間（南）	集合住宅	２７２戸		
	平赤井	集合住宅	５１戸		富岡町・大熊町・双葉町・浪江町
広野町	下北迫（ペット可）	木造２戸１棟	３０戸		
		計	４９１戸		

第４期から引き続き募集を行う団地

所在地	団地名	住戸形態	戸数	入居可能時期（予定）	入居対象市町村
福島市	北沢又	集合住宅	７７戸	平成２９年１～３月または平成２９年度前期	富岡町・大熊町・双葉町・浪江町・飯舘村
郡山市	守山（ペット可）	木造２戸１棟	２８戸	平成２８年１１～１２月または平成２９年度前期	富岡町・大熊町・双葉町・浪江町
いわき市	勿来酒井（ペット可）	木造戸建て	６戸	平成２９年度後期	双葉町
	中原（東）（ペット可）	集合住宅	２１戸	平成２９年度前期	富岡町・大熊町・双葉町・浪江町
	中原（西）	集合住宅	５１戸	平成２９年度前期または平成２９年度後期	
	四ツ倉	集合住宅	４９戸	平成２９年１０～１２月または平成２９年度後期	
二本松市	石倉	集合住宅	４０戸	平成２８年１１～１２月または平成２９年度前期	富岡町・大熊町・双葉町・浪江町・飯舘村
南相馬市	牛越（辻内）	集合住宅	４８戸	平成２９年度後期	南相馬市・富岡町・大熊町・双葉町・浪江町・飯舘村
		計	３２０戸		

※入居可能時期（予定）については、工事の状況により前後することがあります。
※北沢又・守山・中原（西）・四ツ倉・石倉については、当選順位により入居可能時期が異なります。ご了承ください。
募集団地の位置図や募集戸数の詳細等については、募集案内をご覧ください。

対象者 平成２３年３月１１日において、南相馬市、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、飯舘村に居住していた方が対象です。

募集案内のご請求先・お問い合わせ先

○入居を希望する方に、『第５期福島県復興公営住宅入居募集のご案内』（入居申込書付属）を随時送付します。
○ご請求は①郵便②電話③ファックス④電子メールのいずれかの方法により受け付けます。
お名前、ご住所、電話番号を右記までご連絡ください。

【ご請求先】
福島県復興公営住宅入居支援センター
〒960-8043　福島県福島市中町８-２　福島県自治会館７階
電話：024-522-3320　　ファックス：024-522-3321
メール：ffkjss@bz04.plala.or.jp
　また、入居支援センターホームページからもご覧いただくことができます。
http://www.npo-junkan.jp/fukkou/

教育長からのメッセージ

意識の持ち方が状況を変える

他の自治体の派遣職員から

震災後、全国の自治体から職員が町の復興のための支援に来ています。今年度は**柏崎市、かすみがうら市、黒部市から派遣され**、双葉町のために協力していただいています。その他、**国や県から派遣されている職員**もいますし、３月までは民間の会社から来ている方もいました。文字通り、オールジャパンで復興に取り組んでいるような気がします。もはや、こうした派遣職員の皆さんの協力なくして、復興に関わる多くの困難な仕事を遂行することは不可能と言って良いくらい、大切な役割を果たしていると感じています。３月に、昨年度までの派遣職員からの感想として**「復興は自分とはあまり関係ないと思わないで、もっと意識を高く持ってください」**という言葉が聞かれました。同様の内容の言葉が複数の職員から聞かれたので、深く印象づけられました。

意識のレベル

かつて「意識の持ちようで状況が変わる」ということを耳にし、そうしたことが果たして起こり得るのかどうか考えたことがあったので、意識の持ち方と状況への関わり方についてもう一度考えてみたいと思います。役場職員の意識として、町の復興を考えない職員は誰もいないと思います。ただ、復興についての意識の持ち方、考え方については様々なレベルが考えられ、より高いレベルでの意識の持ち方によっては、周囲に与える影響も小さくなく、周囲の状況を変える力になり得るものだと言えるのではないかと思います。**復興に関する会議や町のイベントに積極的に関わる**、町民と復興に関して意見を交換する等の姿勢を意図的に持ちうるならば、しかもそうした意識が職員組織全体に見られるようになれば、状況の変化は期待できるように思います。

望ましい雰囲気の醸成

町立学校に目を向けると、子どもたちや先生方の努力に対して職員や町民が応援して、それを励みにしてまた子どもたちが頑張るという好ましい状況が見られます。応援の仕方、内容の違いはあれ、そうした**雰囲気の醸成が重要**なのです。その雰囲気がもっと明瞭になれば、つまり入学者の増加や教育内容、教育環境の充実を意図した応援行為が見られれば、さらに状況は変わってくるでしょう。学校においては、そうした雰囲気作りに取り組む主体は教育委員会はもちろんですが、教師や保護者、そして近くに住む町民や地域住民になります。

つまりは、**関係者すべての意識の持ちようと関わり方**が重要なのだと言いたいのです。

町全体として

町民の意識についてはどうかと言えば、やはり同じであると思います。震災後、町民の皆さんがダルマ市のほか多くのイベントに、県内外での生活学級・婦人学級等の生涯学習講座に、自治会活動にそしてそれぞれの避難先での交流会に意欲的に参加しています。そうした状況が町の広報やタブレット等での情報で確認でき、**町全体が活性化しているという、町民の意識の高揚につながっている**と思います。こうした多くの町民の意識の高まりを一つの方向へと導くことができれば、町の復興への大きなうねりとなっていくことが十分に可能になっていくのではないでしょうか。先の大震災は被災地に大きな爪痕を残しました。被災地では様々な支援を頼りとし、力強く復興への歩みを進めていると感じます。阪神・淡路大地震からの復興も信じられない程、急速に進みました。震災後の復興の姿、住民の動きを見ると、復興への意識の持ちよう、関わり方が様々な形で影響しているのではないかと考えています。それぞれの立場で今何ができるかを考えていきたいと思います。

双葉町教育長　半谷　淳

町立小学校で授業公開

6月27日、町立双葉南・北小学校の2学年、6学年で授業公開が行われ、町教育委員や県内の教育関係者など約20人が参観されました。

2学年では、算数の「水のかさ」についての授業が行われ、児童2人は始めにますを使って測る役、記録する役に分かれました。そして、1Lますと1dLますを使って、教師が用意したペットボトルにはどれくらい水が入っているのかを協力しながら調べていきました。

わかったことをノートにまとめたり、教師の質問に積極的に手を挙げて答えたりする姿が多く見られました。

▲▼ 2学年「算数」の授業

6学年では外国語活動の授業が行われ、「can」を使って「できること、できないこと」を質問したり、答えたりすることを学びました。ALTの英語での質問にイエスとノーのカードを使って予想するゲームや二人組になって「テニスはできますか」などの質問をし合い、答えを聞いてタブレット端末を操作し、整理していくなど、児童が意欲的に取り組める内容の授業でした。

県内でも使用している学校は数少ない電子黒板やタブレット端末を積極的に取り入れての授業に、参観された方々はメモを取りながら熱心に見入っていました。

◀▶ 6学年「外国語活動」の授業 ◀▶

双葉郡スポーツ交流大会 結果のお知らせ

7月18日、広野町を会場に平成28年度双葉郡スポーツ交流大会（旧双葉郡総合体育大会）が開催され、双葉町からは野球、バレーボール、剣道競技に出場し、選手の皆さんが各避難先から参加しました。

開会式は広野町中央体育館で行われ、8町村のそれぞれの旗を先頭に選手の皆さんが整列しました。

双葉郡体育協会会長の遠藤智広野町長から「東日本大震災から5年が経過し、なお避難生活を送る方々がいる中、双葉郡スポーツ交流大会が開催できること大変嬉しく思います。練習をすることもご苦労があったと思いますが、今日は和気あいあいと交流を深めてほしいと思います」とあいさつがありました。

開会式終了後は、競技ごとに会場に分かれて試合を開始しました。

当日は気温が高くなりましたが、海風がさわやかに吹く中、選手の皆さんは勝利を目指してはつらつとプレーしていました。

双葉町チームの結果は次のとおりです。

- **野球…第3位**
- **バレーボール…準優勝**
- **剣道…第3位**

開会式で町の旗を前に整列する選手の皆さん

野球…1回戦、葛尾村に勝利

バレーボール…決勝で広野町に惜敗

野球は、広野町総合グラウンドで行われ、双葉郡8町村の全チームが出場しました。双葉町チーム（加藤秀樹監督）は1回戦を葛尾村と戦い、5－0で勝利。チャンスを確実に生かして得点を重ね、失点もゼロでの勝利となりました。2回戦は優勝候補の浪江町と対戦。途中まで互角の戦いを見せていましたが、徐々に疲れが見え始め、惜しくも敗れてしまいました。敗れたものの、選手の皆さんは最後まで力を出し切りました。

バレーボールは、広野町中央体育館を会場に、広野町、楢葉町、富岡町、双葉町の4チームが出場し、トーナメント方式で行われました。二連覇が期待される双葉町チーム（菊池直子監督）は初戦を楢葉町と戦い、セットカウント2－0で勝ち進みました。決勝戦は広野町と戦い、手に汗握る接戦となりましたが、惜しくも1－2で敗れ準優勝となりました。優勝は逃しましたが、8月に行われる県民スポーツ大会には気持ちを切り替え臨むという力強い言葉がありました。

今年から復活した競技の剣道には、双葉町から2選手が出場しました。それぞれベスト4、ベスト8の好成績を残し、双葉町チームとしては第3位となりました。

選手の皆さんは、練習に集まることも困難な中、各避難先からの出場となりましたが、最後まで諦めないプレーで見ている人に元気を与えてくれました。

剣道…白熱した試合を展開

寺松地区 総会・交流会

6月11日、12日の2日間、郡山市磐梯熱海温泉「ホテル華の湯」において、寺松地区の総会・交流会が開催され、各避難先から36人が参加しました。

開会に先立ち、大震災から5年3カ月を迎え、亡くなられた方々、また、震災により避難生活を強いられる中で亡くなられた寺松地区の方々へ黙とうを捧げました。

総会は大塚憲さんの進行で進み、初めに伊澤史朗町長のメッセージが読み上げられ、町の復旧復興について、また、各避難先で生活する町民の皆さんへの想いが書かれており、参加された皆さんは、伊澤町長の町政の取り組み方に関心を示され、それぞれ理解されていました。

続いて、石田翼区長よりあいさつがあり、平成27年度の一般会計報告及び28年度の予算案の説明が高野光夫さんからあり、全て承認されました。

交流会は、副区長の松本汀さんの乾杯の音頭で始まり、酒を交えながらの話題は尽きることなく、古里寺松での思い出話や近況報告、また、カラオケなどで大変盛り上がりました。いつ帰還できるか分からぬ遠き古里を偲びながらそれぞれの懇親を深め合いました。

宴会の締めは、日吉会会長の藤田光成さんからまた同じ場所での再会を誓い合っての一本締めで交流会を閉じました。その後は、各自の部屋や二次会へと・・・

翌日は、皆さんフロントに集まり、次回の再会を誓い、別れを惜しみながらそれぞれの避難先へと帰られました。

日赤主催

平成28年度 避難地域住民交流会

－今年も日本赤十字社福島支部による交流会が開催されます－

○**日　時**…１０月６日（木）日帰り
１０：３０～１５：００

○**場　所**…「飯坂ホテル　聚楽」
福島市飯坂町西滝ノ町２７
☎０２４－５４１－２５０１

○**対象者**…双葉町民の方

○**定　員**…１５０名（先着順）

○**内　容**…全国各地に離散している町民同士の交流
（バイキング形式の昼食及び温泉入浴）

○**参加費**

・**日赤負担**：会場往復交通費（バス料金）、昼食代（アルコール類以外）及び入浴料

・**参加者負担**：バス乗降場所までの交通費、アルコール類飲料代等

※申し込み方法など詳しくは、広報ふたば９月号でお知らせいたします。

細谷地区

総会・交流会

再会を喜び合い、ひとときを楽しんで

6月21日、22日、福島市穴原温泉「月の瀬旅館」において第5回細谷行政区総会・交流会が開催され、14世帯24人が参加しました。

総会に先立ち、震災により亡くなれた方々のご冥福を祈り、黙とうを捧げました。

続いて、大橋庸一区長から「ふるさとを失い、長期避難生活に対する労いの言葉と、この先慣れない土地での自立した生活確保に取り組むこと。また、離れていても絆の維持を大切にしたい」というあいさつがありました。羽山君子議員からは、町が抱える諸問題等に対し、誠意を持って取り組んでいくことと、議会活動の報告を含むあいさつがありました。

出席いただいた金田勇副町長からは、国が進めている中間貯蔵施設に町有地を仮置き場とすることについては、町、議会の経過と町民の意見集約を待って対応すること、また「生活サポート補助金」に関する説明があり、賛否は別としていずれも概ね理解を得たようでした。

議事に入り、会計決算、維持費ＡＤＲ、大字会財物賠償の各経過報告、自主防災会の器材の扱い等の説明があり、それぞれ承認されました。また、今回参加できなかった方々からのメッセージの披露もありました。

交流会では、1年ぶりの再会を懐かしむと同時にお互いの近況報告や情報交換等に話が弾み、時間を忘れて話し込む姿がありました。豪華景品が当たるビンゴゲームでは、日頃の心労を忘れて全員の心が一つになり、笑い声が絶えませんでした。

解散後、二次会に移っても話は尽きず、夜が更けるのも忘れて大いに盛り上がりました。

翌朝、お互いの連絡先等を確認し合い、次回の再会を約束して、それぞれの避難先へ帰りました。

東京ふれあい双葉会からのお知らせ

秋のバスツアー ＜東京NEWSなスポットめぐり＞

日　　時：９月１９日（月・祝）
集合場所：東京駅丸の内南口
集合時間：９時３０分
金　　額：一人6,000円
定　　員：３０名
（バスの都合上定員を設けています。申し込み順になりますのでご了承ください）

申込み締め切り：８月１０日（水）

右記の連絡先へお申し込みをお願いします。

そ の 他：会員の皆様へは、詳細を別途お送りします。

東京ふれあい双葉会は、東京都及び近隣地域にいる双葉町民のグループです。

まだ会員になっていない方でも気軽に参加いただけますので、ご連絡お待ちしております。

今後の予定

・10月　交流会＠福島　　・29年1月　新年会

【申し込み・問い合わせ】

○谷　　尚之（三字）☎０９０－７０７２－０９５９
○和泉　英二（三字）☎０９０－８９２１－３９０７
○佐藤　孝一（山田）☎０８０－５５７１－３６９４

石熊地区

総会・交流会

古里双葉町から避難を強いられ、早や5年が経過しました。

今年の総会は、6月26日、27日、いわき市にある「ホテル塩屋崎」をお借りし、32人の参加者が各避難先から集まりました。

総会を毎年実施することとしており、今年も地区の皆さんの協力の下、盛会裏に開催することができ、有意義な時間を過ごすことができました。

総会には、今回初めて伊澤史朗町長の出席をいただき、震災以降の取り組みなどについて説明していただきました。参加した皆さんからは「今後の町はどうなるのか」「石熊地区は線量が高くて帰れない」「宅地及び建物内は動物の侵入により荒らされているため、住める状況ではない」「解体してほしい」など、数多くの意見が出されましたが、それらに対して町長から一つひとつ丁寧な説明をいただきました。

交流会では、参加された皆さんの中には、年に一度しか会うことができない方もおり、懐かしさから時間が経つのも忘れて話をする姿がありました。

最後に、来年は中通りでの開催を決定し、再会を楽しみに頑張ることを誓い合い閉会しました。

平成28年度　個人事業税の課税のお知らせ

個人事業税は、県内に事務所、事業所を設け、物品販売業や不動産貸付業など、法律で定められている事業を行う個人の方に納めていただく県の税金です。

平成27年分の所得について課税となる方には、平成28年度個人事業税の納入通知書を8月10日（水）までに発送しますので、納期限の8月31日（水）までに納付をお願いします。（課税額が1万円以上の場合は、8月と11月の2回に分けて納付となります）なお、所得税の確定申告時期等によって、納税通知書の発送時期が遅れることがあります。

東京電力ホールディング株式会社から支払いを受ける賠償金のうち、避難指示等により業務に従事することができなかった、または出荷制限指示により棚卸資産等が損失したこと等に対して支払いを受けた賠償金については、個人事業税の課税対象となる事業所得となります。

【申し込み・問い合わせ先】
相双地方振興局県税部課税課　課税第一チーム
☎0244－26－1126

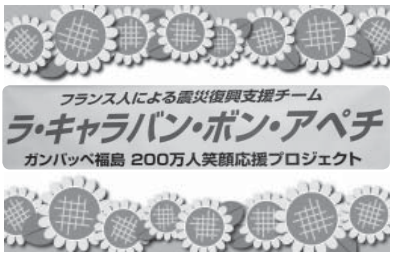
フランス料理のつどい

6月26日、双葉町立学校仮設校舎体育館において、在日フランス人のボランティア団体「ラ・キャラバン・ボン・アペチ」による「フランス料理のつどい」が開かれ、約150人の町民の皆さんが参加されました。

会場では手回しオルゴールの演奏やフランス人落語家の高座、大道芸人によるショーがあり、会場の皆さんは簡単な手の振りを付けた歌を一緒に口ずさむなど、賑やかな雰囲気に包まれました。

その後、一人ひとりに料理が運ばれ、料理を前にした皆さんには笑顔がこぼれました。メニューは牛ホホ肉の赤ワイン煮込みや豚のテリーヌなどで、普段なかなか味わえないフランス料理を味わった皆さんからは「本格的でとてもおいしい」などの言葉が聞かれました。

また、終了後には一人ひとりへフランス産の品物が入ったお土産も配られました。



双葉町内での地力増進作物の試験栽培実証圃の設置について

今年５月から、福島県農業総合センター浜地域農業再生研究センターと双葉町農業委員会が協力して、除染後農地の効果的な保全方法の実証試験を行っています。

町内の避難指示解除準備区域内（大字中野）の農地で、地力増進作物を作付し、畦畔（けいはん）などの草刈りを実施しました。

この試験の目的は、除染後の農地は地力の低下が懸念されること、そして農地の除染が終了しても本格的な営農再開までは年数を要することなどから、地力増進作物である、春夏作にはセスバニア、ソバ、クロタラリア、ハゼリソウを、秋冬作にはヘアリーベッチを作付し、その後農地にすき込みして、効果的な農地の保全管理方法の実証を行うものです。

ママサロン in なこそ

毎月第２・第４木曜日、いわき市錦町のふたばーくにおいてママサロン in なこそを開催しています。未就学児とそのお母さんたちが参加しており、子どもたちが一緒に遊んだり、お母さん同士の情報交換や子育てについて話をしたりする交流の場となっています。

６月９日には臨床心理士による子育て相談が行われ「離乳食があまり進まない」など日頃の悩みに心理士さんからはもちろん、先輩ママさんが経験を踏まえての話をしてくれる場面も見られ、先輩ママの実体験に安心するお母さん方もいました。

また、６月２３日には歯科衛生士による歯磨き指導がありました。子どもへの歯磨きに苦労しているというお母さんにアドバイスをいただいたり、虫歯予防について具体的に教えていただいたりしました。

和やかな雰囲気の中で開催していますので、お友達を誘って参加してみてはいかがですか。今年度の予定など詳しくは広報ふたば４月号または町ホームページをご覧ください。

▶臨床心理士による子育て相談

◀歯科衛生士による歯磨き指導

相馬野馬追祭に向けて大熊町との合同練習 ～相馬流れ山踊り～

７月２日、１０日、１８日、いわき市において相馬野馬追祭に向けた相馬流れ山踊りの練習が大熊町との合同で行われました。県内外に避難している双葉町民、大熊町民の皆さんが集まり、練習も最終段階となりました。

震災前より、標葉郷の流れ山踊りのご指導をいただいている先生に今年もお願いし、緊張感を持った活気ある練習となりました。手の位置、高さなどの細かい動きを何度も繰り返し練習し、次第に踊り手の皆さんの動きがとても綺麗に揃っていくのがわかりました。１０日はテープではなく生の演奏と歌での練習となり、まさに本番への総仕上げとなりました。分からない所は積極的に先生に質問する姿もあり、皆さんの意欲が伝わってきました。

これまでの練習で自信をつけた皆さんは、２４日の本番でも素晴らしい踊りを披露しました。詳しくは広報ふたば９月号に掲載いたします。

いわき・まごころ双葉会 バスツアー開催

6月28日、年間活動計画の一つである日帰りバスツアーを実施し、会津ころり3観音の参拝と緑の深まった裏磐梯の散策を楽しみました。

参加者は70人、バス2台に分乗し出発。目的地の会津地方は曇り空でしたが、心配された雨も降らず、ツアーを楽しむことができました。

会津ころり三観音（鳥追い観音・立木観音・中田観音）の歴史的な由来や話題等をガイドさんから聞き、それぞれの想いを胸に感謝を込めながら心静かに参拝しました。

バスは一路裏磐梯を目指し、周囲の緑が一段と鮮やかな五色沼に到着。裏磐梯を背景に全員で集合写真を撮った後、桧原湖を望む湖畔のドライブインで少し遅めの昼食をとり、岐路につきました。

バスの中では、頭の体操を兼ねた豪華景品が当たるクイズをし、賑やかな笑いに包まれて楽しいひとときを過ごしました。また「双葉町民の歌」を聴きながら、流れる車窓から見える山々に双葉への想いを馳せながら、予定通りいわきに到着しました。

いわき・まごころ双葉会

七夕飾り制作 ～薄磯団地自治会との交流～

７月８日、いわき市内郷にある常磐教会において、いわき・まごころ双葉会の婦人部が中心となり七夕飾り制作が行われました。今年は、昨年１０月から交流活動をしているいわき市の薄磯団地自治会と合同での制作となり、約４０人が参加しました。まごころ双葉会と薄磯自治会の皆さんが一緒になって３つの班に分かれ、七夕飾りを作っていきました。皆さんとても手際が良く、また「次は何をすればいい？」「ここはこうしたほうがいいね」などと声を掛けあってどんどん作業は進められていきました。双葉町マスコットキャラクターのフタバくんと薄磯地区をイメージさせる塩屋崎灯台の写真を交流の証として貼り付けた七夕飾りとなり、出来上がった３つの飾りが教会の高い天井から下げられると、皆さんからは歓声と拍手が沸きました。

飾りは８月６・７・８日に開催される「平七夕まつり」において、いわき駅周辺に飾られる予定ですので、ぜひ足を運んでください。

双葉町交流会　ふるさとの集い

7月9日、横浜市南区吉野町市民プラザにおいて「双葉町交流会ふるさとの集い」が、NPOかながわ避難者と共にあゆむ会と双葉町の共催で開催され、神奈川県近辺に避難されている町民の方々といわき・まごころ双葉会の方々が参加しました。

初めに、伊澤史朗町長が「事故後5年が経過し、全国紙の新聞で取り上げられることが減っている。必ずふるさとに戻れるようにしたい」とあいさつしました。

次に、鈴木實あゆむ会会長からのあいさつの後、伊澤町長へ長崎羊子画伯の絵が贈られました。続いて、岡田常雄いわき・まごころ双葉会会長からあいさつがありました。

その後、ウェルカムステージとしてアカペラで「上を向いて歩こう」「見上げてごらん夜の星を」の演奏があり、懐かしい曲に参加者の方々は口ずさみながら楽しんでいました。

伊澤町長が双葉町の復旧・復興に向けた取り組みの現状について説明し、双葉町復興拠点基本構想、中野地区復興産業拠点の概要、中間貯蔵施設などについて説明しました。

その後、参加者で懇談し、大橋庸一いわき・まごころ双葉会事務局長がいわき市の薄磯地区との交流活動について、映像を交えて発表しました。

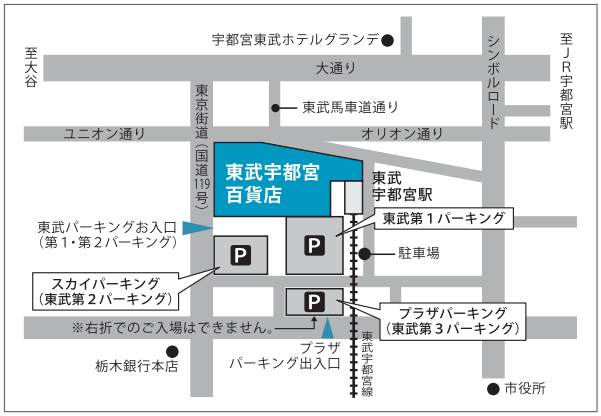
最後に、参加者全員で記念撮影し、今後も本交流会が継続していくことを参加者全員で誓いました。

関東地方に避難している双葉町民の皆さまへ

下記日程で双葉町民の交流会（食事をはさんだ懇談会）を計画しています。
一緒に双葉のつながり**「ふたばのわ」**を広げませんか。皆さまの参加をお待ちしています。

①交流会 in 栃木

日　時：9月4日（日）午前11時30分～
（11時20分現地集合）
参加費：3,000円程度（昼食代）
場　所：東武バンケットルーム「スパイスホール」
（※お料理内容は和食　月山）
東武宇都宮百貨店　8階レストラン街
（宇都宮市宮園町5－4）



東武バンケットルーム「スパイスホール」
☎028−636−2211（代表）

・東武宇都宮線「東武宇都宮駅」直結
・ＪＲ東北本線「宇都宮駅」西口よりバスで約6分
（ＪＲ東北本線「宇都宮駅」より路線バスをご利用の方はお知らせください）
・東北自動車道　宇都宮ＩＣまたは鹿沼ＩＣより約20分
（東武パーキングをご利用の場合、3時間まで無料）

申し込み締め切り：8月26日（金）

②大望年会 in 関東

12月上旬には大望年会開催を予定しています。
詳しくは「広報ふたば9月号」をご覧ください。

【申し込み・問い合わせ先】
主催：双葉町復興支援員（ふたさぽ）秋元・飯嶋
☎ 070−5550−7645
✉ f-saitama@futabamachi-s.com
※参加者名、参加人数、連絡先、双葉町の行政区をお知らせください。
※ご不明な点があればお電話ください。

生活サポート補助金

コールセンター・相談窓口へ寄せられたよくある質問をまとめました

Q 補助金は、交通費などの１０万円と、県産品の５万円を合計して１５万円が支給されるのか。

A 県産品の５万円も含めて、総額１０万円までの補助となります。

Q 標準交通費と実際にかかった費用に差額が生じた場合、実際にかかった費用で申請することはできるのか。

A 金額にかかわらず、実際にかかった費用で申請することはできません。標準交通費で申請してください。

Q 住民間、知人間の行き来について、その範囲はどのようにするのか。

A 住民間とは双葉町の住民同士、知人間とは親戚・友人・同僚などとなります。

Q リーフレットに記載されている標準交通費の県以外に移動した場合は、対象にならないのか。

A リーフレットは標準交通費の例として記載しております。
ほかの地域の標準交通費一覧は、９月頃送付予定の申請書・解説書に同封されます。

Q 「通信費の増加分」とあるが、増加とはどういう意味か。増加分はどのように算出すればいいのか。

A 避難生活により、家族や知人の方へ連絡が増えたことによる電話料金の増加分です。
申請は、金額に関わらず、対象世帯人数を上限に一回線につき１万円（年額）で計算します。

Q 福島県産品の自家消費について、制度上の制約はあるのか。

A 自家消費についての制限はありませんが、対象経費については５万円が上限です。

Q 塾の月謝を口座引き落としにしているが、どのように証明すればよいのか。

A 通帳の写しでの確認になります。また、月謝袋などの場合も、その写しで確認します。

Q 説明会はいつ頃から実施されるのか。

A 説明会は、１０月以降実施の予定です。
日程など詳細が決まり次第お知らせします。

コールセンターのご案内

詳しい補助事業の内容や申請方法等について、お困りの方は、下記へお問い合わせください。

お問い合わせ　**０１２０－２８０－７０７**　※フリーダイヤル通話料無料

受付時間　月～金曜日　午前９時～午後６時（土・日・祝日、12月29日～1月3日を除く）

環境省　福島環境再生事務所からのお知らせ　～中間貯蔵施設について～

◇輸送について

➢双葉町内中間貯蔵施設保管場の試験輸送の状況は下記のとおりです。
～実施中～
双葉町（５月１２日開始）・浪江町（６月２０日開始）・伊達市（７月８日開始）

➢お盆期間中（８月１１日～８月１７日）は試験輸送を休止する予定です。

◇保管場及び陳場下交差点の放射線監視

➢空間線量率の測定により、除染土壌等の搬入による周辺への影響は見られないことが確認されています。
今後もしっかりと安全対策及び放射線の監視を行ってまいります。

➢中間貯蔵施設及び周辺モニタリングの結果については、以下のＪＥＳＣＯ（中間貯蔵・環境安全事業株式会社）のＨＰで公表しております。
（URL）http://www.jesconet.co.jp/interim/operation/monitoring.html

【問い合わせ先】福島環境再生事務所 中間貯蔵施設等整備事務所
調査設計課　　☎０２４－５６３－１２９３

一年に一度は健康診査・がん検診を受けましょう

双葉町の死亡原因の５割以上を占める、がん、脳卒中、心臓病などの生活習慣病は、初期の自覚症状がほとんどなく、気づいたときには症状が進んでいるという場合も少なくありません。

町では、皆さまの健康管理を支援するために、健康診査・がん検診を実施します。一年に一度は健（検）診を受けて、健康状態をチェックし、健康づくり・生活習慣の見直しに役立てましょう。

［健康診査（特定健診等）を受けて生活習慣を見直しましょう］

健康診査（特定健診等）は、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に着目した健康診査で、脳卒中や心臓病だけではなく、それらの病気の引き金となる高血圧や糖尿病といった生活習慣病の予防や早期発見のためにとても大切な健診です。

生活習慣病は、食生活や運動習慣などの生活習慣の改善により予防できる病気であり、健康診査により生活習慣病の予兆であるメタボリックシンドロームを発見することは、とても重要です。

［総合健診の受け方］

避難先住所によって受け方が異なります。

1．福島県内に避難先住所を登録している方

- ７月中旬に送付した、各種健（検）診の意向調査票の回答内容に基づき、健診日が近くなりましたら受診録や容器を発送します
- まだ返送がお済みでない方は意向調査票をご返送ください。
- 既に意向調査票をご返送頂いた方で、健診項目を追加したい場合には、双葉町健康福祉課（℡0246-84-5205）へご連絡ください。

2．福島県外に避難先住所を登録している方

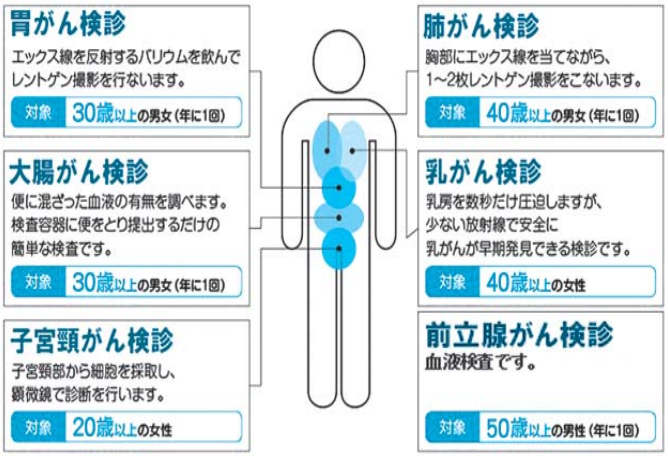
- 双葉町が委託している「結核予防会」より総合健診のご案内が７月中旬に送付されています。
- 詳しい申し込み方法や受診等につきましては、ご案内の中にある『結核予防会予約センター』へご連絡ください。

［がん検診を受けましょう］

がん検診は自覚症状が無い時点で行われることから、がんが進行していない状態で発見することが出来ます。がんが不治の病と言われたのは昔のことで、現在では早期発見、早期治療でがんはその多くが治ります。『あなた』と『あなたの大切な人』のためにがん検診を受けましょう。

なお、近年、大腸がんによる死亡数が増加しており、がんによる死亡数は男性で３位、女性で１位となっています。しかし、大腸がん検診の受診者数はまだまだ少ない状況で、福島県の受診率が 31.6% なのに対して、双葉町の受診率は 24.3% に留まっています（平成 26 年度）。

大腸がん検診は便潜血検査（いわゆる検便）を行います。便潜血検査を受けることで、がん検診の中でも最も死亡率が下がる事が証明されています。便の採取は自宅で行うことができ、食事制限の必要もない簡単な検査です。



総合健診で受けることができる項目

健診種類	内　容	対象者	費用負担
前立腺がん検査（血液検査）	値が高くなれば、前立腺がんである危険性も高くなりますが、前立腺肥大症や前立腺炎でも上昇します。	50 歳以上の男性	無料
心電図検査	心臓の機能や心臓病の有無を調べる検査で、異常が見られる場合は、狭心症、心筋梗塞、心肥大などの病気が考えられます。	30 歳以上の方	無料
眼底検査（眼底をカメラで撮影）	眼底の血管を調べます。糖尿病や高血圧による目の病気や動脈硬化の状態などを知ることができます。緑内障の早期発見もできます。	30 歳以上の方	無料

【子宮がん施設検診実施医療機関一覧に記載の電話番号の訂正とお詫び】

いわき市・広野町に避難先住所を登録している20歳以上の女性の皆さまへお送りした、子宮がん検診のお知らせに同封の『子宮がん施設検診実施医療機関一覧【いわき地区】』に記載の電話番号の一部に誤りがありましたので、下記のとおり訂正させていただきます。

	正	誤
渡辺婦人科内科クリニック	0246−77−2772	0246−77−2272

皆さまにご迷惑をお掛けしましたこと心よりお詫び申し上げます。

公益財団法人　福島県保健衛生協会

健康コラム

夏休みを利用して　予防接種を受けましょう

お子さんの定期予防接種はお済みですか？予防接種をすると体に免疫ができ、病気にかかりにくくなります。また、病気にかかったとしても症状が軽くて済みます。

予防接種は平日に受付けしている病院が多く、お子さんの体調を見ながら、夏休みを利用して予防接種を受けましょう。

◇予防接種の種類や対象年齢は

広報ふたば4月号で詳しく案内していますので、そちらをご覧ください。なお、町ホームページにも予防接種の案内を掲載しています。

◇予防接種の接種方法は

避難先が福島県内と福島県外で接種方法が異なります。

○福島県内にお住まいの方

・県内の予防接種実施医療機関で接種が受けられます。

・予診票がお手元にない場合は、予診票を送付しますのでご連絡ください。

○福島県外にお住いの方

・原発避難者特例法により、避難先自治体で接種を受けることができます。

・避難先自治体の予防接種担当部署にお問い合わせください。なお、町からの依頼書等が必要な場合はご連絡ください。

＜問い合わせ先＞

健康福祉課　健康づくり係

☎0246−84−5205

全国一斉「高齢者・障害者の人権あんしん相談」強化週間の実施について

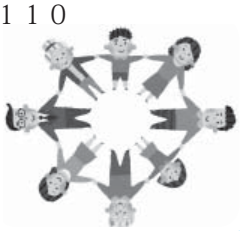
法務省人権擁護局と全国人権擁護委員連合会は、９月５日（月）から９月１１日（日）までの７日間、全国一斉「高齢者・障害者の人権あんしん相談」強化週間として、身体的・心理的虐待や差別、嫌がらせなど、高齢者・障害者の抱える人権問題について電話相談を実施します。相談は、人権擁護委員及び法務局職員が応じます。秘密は守られますので、お気軽にご相談ください。

なお、強化週間の期間以外の日（土・日・祝日を除く）においても、午前８時３０分から午後５時１５分まで、相談に応じていますのでご利用ください。

期　　間：９月５日（月）から９月１１日（日）までの７日間

時　　間：午前８時３０分から午後７時まで（ただし、９月１０日（土）、１１日（日）は午前１０時から午後５時まで）

電話番号：０５７０－００３－１１０



【問い合わせ先】

福島地方法務局人権擁護課

☎０２４－５３４－１９９４

内部被ばく検査の結果について

－町が実施した平成２７年度の検査結果について報告いたします－

◇ホールボディカウンター（ＷＢＣ）による内部被ばく検査◇

検査の人数：２５８人
（検査場所ごとの内訳は下記のとおり）

検査結果

・９９％以上の方は、放射性物質が検出されませんでした。
・預託実効線量※は全員が１mSv未満でした。
・セシウム１３４および１３７が検出された方は２人でした。

受検者数	いわき事務所	１０２人
	埼玉支所	４９人
	ひらた中央病院	１０７人
	合　計	２５８人

このほか、福島県が実施しているＷＢＣによる内部被ばく検査を受検した方は次のとおりです。

○車載式ホールボディカウンター
（県内応急仮設住宅等５カ所）　９９人
・セシウム１３４および１３７が検出された方はいませんでした。
・預託実効線量※は全員が１mSv未満でした。

※預託実効線量は、体内に取り込まれた放射性物質から将来にわたって受け続ける被ばく線量を推計した数値で、健康への影響の可能性を推計しています。年間１mSv未満が、一般的に健康に影響がないとされている基準です。

◇尿による内部被ばく検査◇

検査の人数：１７２人（尿２L，５００ml，オムツでの受検の合計数）

検査結果

・検査した検体の平均尿中放射性セシウムは０.０５６Bq/kgでした。前年度の結果と比較して減少しています。
・預託実効線量※は、基準となる１mSvを大きく下回っていました。

◇甲状腺検査◇（対象者：震災当時39歳以下の方）

検査の人数：２３４人

検査結果

	人数	A１	A２	B	C
総　数	234	80 (34.2)	137 (58.5)	16 (6.8)	1 (0.4)
0～18歳	149	52 (34.9)	90 (60.4)	6 (4.0)	1 (0.6)
19～39歳	85	28 (32.9)	47 (55.3)	10 (11.8)	—

※事故当時の年齢です。下段カッコ内は％を示してします。

※甲状腺検査判定基準

Ａ１…結節や嚢胞を認めなかったもの
Ａ２…5.0mm以下の結節や20.0mm以下の嚢胞を認めたもの
Ｂ　…5.1mm以上の結節や20.1mm以上の嚢胞を認めたもの
Ｃ　…甲状腺の状態等から判断して直ちに二次検査を要するもの

平成２８年度内部被ばく検査の実施について

ホールボディカウンター（ＷＢＣ）による検査

○いわき事務所で随時実施します。詳細はお問い合わせください。
○埼玉支所では、機器を移設するため、９月以降に検査を再開する予定です。

尿による内部被ばく検査

○今月号の広報に今年度の尿検査のご案内を同封してありますのでご覧ください。

甲状腺検査

○５月下旬に甲状腺検査のご案内を対象の方にお送りしております。

【問い合わせ先】健康福祉課　健康づくり係　☎０２４６－８４－５２０５

教育総務課生涯学習係事業開催のお知らせ

8月　生活学級の日程

※婦人学級の予定は、同封のチラシをご覧ください。

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4 ◆あいづ生活学級（会津若松市） ②震災とふたば 城前仮設集会所 10：00～	5	6
7 県民スポーツ相双地域大会 ソフトボール （南相馬市北新田野球場） バレーボール （南相馬市石神中学校体育館）	8	9	10	11 つくば自治会盆踊り（つくば市） つくば連絡所 11：00～14：00	12 成人式実行委員会 いわき事務所 13：30～	13 南台盆踊り（いわき市） いわき市南台仮設 18：00～20：00
14 埼玉自治会盆踊り（加須市） ふじアリーナ 18：00～20：30	15	16 渡邉一成選手男子ケイリン出場 1回戦 22：18～ 2回戦 4：00～（17日） 決　勝 6：20～（17日） （日本時間）	17	18 ◆こおりやま生活学級（郡山市） ②震災とふたば せんだん広場 13：30～	19 ◆そうま・みなみそうま生活学級（南相馬市） ②震災とふたば 南相馬市生涯学習センター 10：00～	20 県南双樹会盆踊り（白河市） 鹿島ガーデンヴィラ 15：00～17：00
21	22	23	24	25	26 ◆ふくしま生活学級（福島市） ①ふたばのいいとこ サンライフ福島 13：00～	27 県中地区自治会盆踊り（郡山市） 県農業総合センター 11：00～16：00
28	29	30	31			

7　白河関まつり「しらかわ伝統芸能フェスティバル」
白河駅前小峰通り　11：00～16：20
出演：双葉町相馬流れ山踊り保存会

～ 平成28年度生活学級のお知らせ ～

平成２８年度の生活学級は、「ふたばのいいとこ再発見－ふるさとを離れて－」を開催いたします。２回目（震災とふたば）は、集まった皆さんに震災で経験したお話をお聞きします。３回目は文化財レスキューや震災資料保全にかかわる施設の研修を予定しています。

２回目は当日、会場に直接お越しください。３回目の参加希望の方は申し込みが必要になります。３回目の日程については、９月以降の広報でお知らせしますので、お申込みください。

【問い合わせ先】　双葉町教育委員会　教育総務課　生涯学習係　☎ 0246－84－5210

双葉町社会福祉協議会
～ 8月健康運動教室、社協サロンのお知らせ ～

こころとからだの健康のため、運動不足を解消しましょう。お気軽にご参加ください。

会　場	問合せ・申込先	開催月日	時　間
健康運動教室（内容：健康講話、相談、運動機能の維持・向上等）			
福島市北幹線第二応急仮設住宅集会所	福島市飯坂町平野内小原田 8-1 ☎ 080-6033-1196（小林）	8月　4日（木） 8月 18日（木） 8月 25日（木）	13:30 ～ 15:00
白河市郭内第二応急仮設住宅集会所	白河市郭内 151-29 ☎ 080-6290-5930（廣田）	8月　2日（火） 8月　9日（火） 8月 16日（火） 8月 23日（火）	10:00 ～ 11:30
南東北総合卸センター 2 階第 6 会議室	郡山市喜久田町卸 1 丁目 1-1 ☎ 024-973-5291（開発）	毎週火曜、水曜日 （祝日除く）	13:30 ～ 15:00

社協サロン（内容：健康講話、相談、趣味、生きがいづくり交流等） ※社協サロンでは昼食を準備致しますので事前に申込みをお願いします。			
郡山市喜久田公民館	郡山市喜久田町堀之内字上ノ台 19 ☎ 024-973-5291（開発）	8月 22日（月）	10:00 ～ 14:00

サポートセンターひだまり出張サロン （内容：健康体操、健康講話、交流会等）			
町民交流施設「ふたばーく」 ※旧東邦銀行植田支店 8 錦出張所	いわき市錦町作鞍 80-5 ☎ 0246-38-7105（渡邉）	8月 30日（火）	10:30 ～ 14:30

【問い合わせ先】双葉町社会福祉協議会　郡山事務所　☎ 024－973－5291【担当：開発】

消防署からのお知らせ
～ ルールを守って楽しい花火 ～

- 風の強い日はやめましょう
- 人や家に向けるのはやめましょう
- 大人と一緒に遊びましょう
- 水を用意しましょう

＜消防署連絡先＞
- 浪江消防署　☎0240－34－7360
- 富岡消防署　☎0240－25－2119

双葉の風だより

全国に避難されている皆さんから寄せられたお便りの一部をご紹介いたします

介護の父を見舞う日々

・父見舞う　にっこりと笑う　冬日向き
・春の日や　ヘルパーさんと　笑う父
・初雪や　父を訪ねて　冬タイヤ
・点滴や　静かに落ちる　父の腕
・入院の　父の点滴　命づな
・夏の宵　父の面影　団扇かな
・日々通う　父の笑顔よ　アンコール

父を見舞うため、郡山からいわき市へ通う日々を句で詠みました。

井戸川　敏江（中田）

初夏に想う

・紫陽花に　テルテル坊主　よく似合い
・土砂降りに　テルテル坊主　べそをかき
・五月雨に　池のアヤメに　足を止め
・紫陽花の　葉を震わせて　色も冴え

五月の雨に　喜々として咲く

武内　恒雄（長塚二）

相双・地産地消で“ご飯のおとも”料理コンテスト！

福島県相双農林事務所では、地場産農林水産物と県産農林水産加工品の家庭での消費拡大につなげるため、家庭で作れるアイディア満載のご飯がすすむ１品料理のレシピを募集します。

入賞者には賞品もございますので、ふるってご応募ください。

◇応募期間

８月１日（月）から９月11日（日）※当日消印有効

※詳細は、福島県相双農林事務所のＨＰをご覧ください。
※インターネットをお使いいただけない方は、資料をお送りしますので、お問い合わせください。

【問い合わせ先】
福島県相双農林事務所　企画部
☎　0244－26－1153
FAX　0244－26－1181

人のうごき６月分　敬称略

お誕生おめでとうございます

氏　名	生年月日	保護者	行政区
渡邉（わたなべ）　壱（えーす）	5月20日	一成・梓	新　山
本林（もとばやし）　蓮人（れんと）	6月　6日	勇太・秀香	羽　鳥
藤田（ふじた）　泰遙（たいよう）	6月12日	隆之・奈緒美	長塚一

お悔み申し上げます

氏　名	年　齢	死亡日	行政区
渡部　春雄	96	5月26日	長塚一
小野　五郎	75	5月27日	下　条
宮口　　易	76	5月29日	郡　山
木幡紀美子	75	6月　8日	新　山
大森　政子	88	6月13日	渋　川
亀田　サダ	86	6月22日	新　山

<お詫びと訂正>

広報ふたば７月号に掲載しました記事の内容に誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

Ｐ２５　「双葉町民の避難状況」（６月１日現在）

正	福島県内に避難されている方	4，070人
	福島県外に避難されている方	2，897人
誤	福島県内に避難されている方	4，072人
	福島県外に避難されている方	2，896人

双葉町民の避難状況　（平成28年７月１日現在）

・福島県内に避難されている方　4,071人
・福島県外に避難されている方　2,895人

※平成23年３月11日時点の住民基本台帳人口から死亡者を引き、出生者と転入者を加えた人口を示しています。

連絡のついた方で、了承の得られた方のみ出生、死亡の方の名前を掲載しています。

なお、掲載を希望しない場合は秘書広報課までご連絡ください。

秘書広報課　☎0246-84-5202

記録として次の世代へ　きずな
ふるさと絆通信
第39号

ずっと、ふるさと。双葉町。

双葉町を忘れない

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、私たち双葉町民はふるさと双葉町を離れ、今もなお全国に分かれて避難生活を送っています。

先の見えない不安な生活の中で、町民の皆さんが毎日をどのような思いで過ごし、ふるさと双葉町への思いを抱き続けているのかを、皆さんの声をお聴きしながら「ふるさと絆通信」として連載していきます。

そして「ふるさと絆通信」を通して、皆さんの双葉町への思いと心の絆がより一層深まることを期待いたします。

「ふるさと絆通信」であなたの想いを伝えてみませんか。

ふるさと絆通信では、避難されている皆さんへ想いを伝えていただける方を募集しています。

避難生活での活動や日々の生活の中で感じていること、ふるさと双葉町への想いをこのコーナーでお話ください。双葉町民の方ならどなたでも結構ですので、ご連絡をお待ちしています。

ー想いを伝えるー

ふるさと絆通信は、株式会社鹿島印刷所（南相馬市）の記者が町民の皆さんの避難先を訪問し、インタビュー取材をさせていただいています。

掲載する文章は、インタビューの内容をもとに記者が作成しますので、インタビューをお受けいただいた方が文章を作成する手間はありません。

【問い合わせ先】秘書広報課　☎ 0246-84-5202

松本（まつもと） 正泰（まさやす） さん

（長塚一）

ふるさと絆通信

●避難先●
福島県白河市

震災被害からの修復が進む避難先にほど近い「小峰城」にて

本職は「豆腐屋」でした

若い世代の方たちは、私について手品をする姿しか知らない方が多いでしょうが、約15年前まで町内で豆腐店を営んでいました。豆腐づくりは早朝から始まり、夏は暑さに加え蒸気の熱と、冬は寒さに加え冷たい水と格闘する日々でした。

平成12年、体調を崩したため看板を降ろしました。それまで、長年にわたりダルマ市に出店し、昔ながらの味として親しまれた手作りの味「デンガク豆腐」を販売し、毎回、長蛇の列で好評をいただいたことは、私にとって、今でも「心の誉れ」となっています。

手品との出会いは「結婚式」

今から20年以上前、隣組で結婚式があったとき、その余興に立つようになりました。当時は、多くの場合、民謡や演歌等のが定番となっていましたが、変わったことをしてみたいと思い手品を演じたところ、会場が静まり返るほどの大盛況となりました。後日、新郎新婦が新婚旅行先から、感謝の言葉を添えた絵葉書が送られてきました。

「売れっ子」ゆえの苦悩

その結婚式以降、手品を披露してほしいと敬老会など各種催事に声がかかるようになり、長男や孫にも声をかけ、「親子孫三代芸」となり、テレビの取材を受けたこともありました。

私が演じる手品は口コミで広まり、せん越ながら、町では「売れっ子」だったかと思います。しかし、出演の機会が増える一方、何度も私の舞台を観ている「重複観覧者」が多く、同じことを繰り返すわけにはいきません。そこで、東京の手品用具店に通い、それこそ「『手』を替え『品』を替え」、持ちネタを増やすことにも余念がありませんでした。

手品芸の再開は「支援への恩返し」

被災後、数カ所の避難所を経て旧騎西高校に身を寄せました。長年住み慣れた故郷を追われ、心身ともにどん底のような日々でしたが、私たち避難者の支援にあたって下さっていた地元の方と交流する中、手品について話したことがきっかけで、騎西周辺の幼稚園や老人施設等で、手品を披露する機会をいただきました。少しでも恩返しになればという気持ちで、素人芸ながらも精一杯演じさせていただきました。

若い世代に希望を託して

旧騎西高校を経て、現在、白河市内で長男夫婦や孫娘、共に避難した愛犬と生活しています。

原発誘致以降、故郷は大きく発展を遂げてきましたが、原発事故という結果となり残念です。しかし、若い世代には、英知を結集して再び豊かな故郷を取り戻していただきたいと願います。今後は、将来に希望を託しつつ、若い世代に迷惑をかけないよう、健康で生きがいある余生を送りたいと思っています。

廣田（ひろた） 英一（えいいち） さん
絹枝（きぬえ） さん
（渋川）

ふるさと絆通信

●避難先●
埼玉県上尾市

地震後に改めて感じた「渋川」の意味

私たち夫婦は、一家で同居していた次男とともに、浪江衛生有限会社を経営していました。

私は自宅近くの畑で同じ地区の方と話をしていたときに地震に襲われました。鴻草方面からは土煙りが上がり、地区を流れる渋川は、いつもはきれいな水が濁っていました。鉄分が多く「渋のような色」に見えることから、その名が付いたと言われていますが、地震後はまさにその通りの状態でした。

公私ともに危機一髪が続いた大津波

震災当時、中浜に住む義妹が会社に勤めていました。その自宅には義父がおりましたが、大津波警報が出されている中、義妹の代わりに次男が急いで中浜に向かい、津波到達直前に義父を連れ出しました。

地震の発生からしばらくして、現場に出ていた従業員が帰社しましたが、最後の一人は、夜になってから会社を出た時のバキュームカーではなく乗用車で戻ってきました。この従業員は、ＪＲ富岡駅近くでバキュームカーごと津波に流され、命からがら脱出したと聞きました。車両を流出させ申し訳ないと話しましたが「命あるだけで十分」と、恐怖冷めやらぬ中、会社まで戻ってきてくれたことに感謝の気持ちで労いました。

家族や従業員ともに無事でしたが、被災直後、このように危機一髪のことが重なりました。

背負って逃げられない「商売」

私の会社は「し尿収集運搬・浄化槽清掃管理業」で、営業地域が限定される許認可事業のため、避難先での再開は事実上不可能です。事業継続の断念は断腸の思いですし、会社を継いでくれていた次男のことを考えると、まだ若いだけに、その将来を案じてやみません。

生かされ、助けられて今がある

避難直後、福島市内の知人にお世話になり、次男らは、一時、従業員や顧客が心配で福島市内に留まりましたが、その後、さいたま市内の長男宅や愛知県蒲郡市にあるその妻の実家を経て、長野県伊那市で生活しています。一方、私たち夫婦は、岩手県奥州市に住む長女一家のもとを経て、子どもたちや故郷との往来が便利な埼玉県上尾市内に、家族で集まることができるよう家を建て暮らしています。

未曾有の震災に遭っても、家族とも無事に生かされ、多くの方に助けられながら日々を送っています。教会での交わりに救いをいただきながら、最近では、私は書道、妻は大正琴など、趣味の活動も再開しました。

原発事故という惨禍は、経済優先がもたらした不幸な出来事です。経済的な豊かさも大切ですが、生命の安全が確保された上でのことです。将来世代のためにも、科学万能ではなく、万物に謙虚な姿勢と感謝の心を持ち続けながら過ごしていきたいと思います。

小畑 一彦（おばた かずひこ）さん
明美（あけみ）さん
（渋川）

ふるさと絆通信

●避難先●
埼玉県加須市

写真中央は長男・大地（だいち）さん（騎西小学校６年）

夜の仕事で昼夜逆転の日々

震災まで「夜の仕事」に就いていたといえば、多くの方は飲食関係と思うかもしれませんが、夜の仕事というより「夜しかできない仕事」というのが正しい表現で、列車軌道、つまり鉄道線路の保守点検・工事を行う会社に勤務していました。仕事は主に、列車の本数が極めて少ない夜間から早朝にかけて行われるため、昼夜逆転の生活になることが多く、震災当日も夜勤明けで、大地震に寝込みを襲われる格好となりました。

幻になった長男の北小入学

子どもを育て上げるまでは頑張らなくてはと、妻もＪＡふたばに勤務し、夫婦共働きの日々でした。平成23年春は、長男が小学校に入学予定だったため、私たち夫婦にとって、希望の節目を迎える時期でした。制服やランドセルから文房具に至るまで、入学式を待つだけでしたが、避難によりそれどころではなくなってしまいました。小学校に入学することは自体は、義務教育なので、特別な努力なくできることですが、故郷で幼馴染みとともに入学式を迎えることが幻となってしまったことは、私たち夫婦というより、長男自身が一番残念に感じているのだと思います。

避難生活で最期を迎えた両親

私たち親子は両親とともに避難し、旧騎西高校でしばらく生活しました。極限状態の中、母は認知症が進み、父は肺炎を起こすなどしたため、両親は福島県内にあった要介護高齢者用の避難所に移り、その後、塙町内の老人保健施設に入所しました。面会や見舞いに通いましたが、平成26年1月には母が、同年9月には父が後を追うように亡くなり、故郷の土を踏むことなく迎えた最期となりました。

生活だけでなく人生まで変わったが

避難により、私はそれまでの勤務先で働くことができなくなってしまったため、しばらくの間、町臨時職員として避難所運営業務にあたっていました。妻はＪＡふたば埼玉サポートセンターで勤務を再開しましたが、同センターの閉鎖に伴い平成25年5月に退職しました。

加須に落ち着くという決断

これまで何度か福島県内に移ることを考えたことはありましたが、加須市立騎西小学校に通い、この土地に馴染み、多くの友人に恵まれた長男に、転校など新たな負担をかけるわけにはいきません。故郷に近い場所にいたいと思う気持ちは今でも変わりありませんが、教育環境など子どもの将来を考えたとき、子育てを終えるまでこの地に落ち着こうと夫婦で決断しました。

気持ちの整理がつかないこともまだありますが、子どもの成長を原動力にして、夫婦でもうひと頑張りしようと思います。

伊澤 慶昭（いざわ よしあき）さん

（三字）

ふるさと絆通信

●避難先●
福島県いわき市

物心ついたときから野球を

父や兄たちが野球をしていたせいか、幼い時の記憶がある範囲では、未就学の頃からキャッチボールをしていたこと、野球をやりたくて仕方がなかったことは、はっきりと覚えています。

小学2年のとき、町スポーツ少年団の野球チームに「飛び級入団」しました。同チームの入団資格は小学3年以上となっていますが、私が両親やすでに入団していた兄にねだり、父が監督に頼みこんで異例の措置となりました。入団後、小学校卒業とともに引退しても、中学校・高校（小高工業高校）と野球部に所属し、高校では、県内ベスト4まで勝ち進んだことがありました。

ある意味「芸達者」だった中学生時代

中学生のとき、最大で4つの部活（特設部を含め）をかけ持ちしていました。もちろん、メインは野球ですが、陸上、駅伝そして合唱の3部でも活動しました。前記2部は、大会が近づくと、まるで季節営業のように特設部が設置され、他の部活動とかけ持つことが珍しくありませんでした。3つ目の「合唱」については、その時の流れでそうなってしまったという感じですが、特に違和感を覚えることなく活動していました。

また、中学生のとき、ふくしま駅伝に2回出場しました。駅伝は野球と同じようにチームプレーです。双葉町という故郷の名だけでなく、町民の皆さんからの思いをタスキに込めて走ることに、プレッシャーのようなものを感じたのは確かですが、それ以上に「故郷・双葉町の一員」だというアイデンティティーのほうが、はるかに強かったのではと思います。

市町村対抗軟式野球大会

社会人になってからは、市町村対抗軟式野球大会に双葉町チームの一員として参加しています。震災後、避難により十分な練習ができないこともあり、期待に応える結果を出せてはいませんが、若い有志が中心となって、一人でも多くの皆さんに元気をプレゼントできるよう、今年の大会も頑張りたいと思います。

故郷への思いと職業そして原発事故

子どもの頃から漠然と故郷の役に立てる仕事に就きたいと考えていたため、高校卒業後は、東京電力㈱に入社し、震災当時は福島第二原発に勤務していました。

震災翌月、旧騎西高校に避難している友人のもとを訪ねました。どう顔向けすればいいのか戸惑っている中、多くの皆さまから温かく迎え入れてくれただけでなく、労いの言葉まで掛けていただきました。正直なところ、原発事故後、何度も退職を考えましたが、この時のことが東電社員としてだけでなく、故郷の一員としても、事故収束と復興に向き合っていきたいと思う転機になりました。

フェイシャルサロン
雪花 うらら
（メナードフェイシャルサロン）

渡邊（わたなべ） 咲江（さきえ） さん
（中浜［旧姓・古室］）

ふるさと絆通信

●避難先●
福島県郡山市

「柔道をしている」というイメージ

震災前、結婚により浪江町民になりましたが、双葉厚生病院に事務職として勤務し、ほぼ毎日、昼食は実家で摂るなど、結婚後も「実質・双葉町民」でした。「**父ちゃんが農協に出てで、柔道やって浪高に行った、中浜の古室から浪江さ嫁に出た娘**」といえばピンとくる方がほとんどかと思います。また、柔道のイメージから、エステの一種であるフェイシャルマッサージは縁遠いと感じる方も多いとは思います。

「おにぎり」が最後の祖父孝行に

震災当日、昼で実家に戻ったとき、田植えに向け農作業に忙しくしていた祖父のためにおにぎりを作り、簡単な言葉を交わして職場に戻りました。間もなく大地震が起き、病院内は大混乱となり、患者さんの避難誘導などにあたっていたため、周囲の被害状況などは分かりませんでしたが、しばらくしてヘルスケアふたばに避難してきた母から、実家は地区ごと津波で流され、祖父が行方不明になっていることを知らされました。避難後、捜索により祖父は見つかりましたが、あの「おにぎり」の時が祖父との最期となってしまいました。

起業のきっかけは「柔道の対戦相手」

平成23年6月から郡山市内で生活していますが、避難後、インターネットを通して、中学時代に柔道のライバル・桜本成美（浪江町）さんと十数年ぶりに再会しました。早速、彼女が白河市内で避難開業しているフェイシャルサロンを訪ね施術を受けたところ、リフレッシュできたことがきっかけとなり、その仕事にチャレンジしました。そして、講習などを経て昨年8月に技術認定（メナード化粧品）を受け、業務を開始し、今年6月から正式に開店し、看板を掲げました。

避難者同士「癒しの空間」を目指して

私はメナードフェイシャルサロンのホームサロンとして、自宅を店舗として営業しており、完全予約制で子ども連れでも来店いただけます。また美肌だけでなく、同じ避難者同士、気軽に話せる癒しの空間を目指していきたいと思います。私を育ててくれた故郷への感謝を込め、当分の間、初回に限り双葉町民限定で無料キャンペーン※を実施いたします。

普通の住宅で営業しているため
玄関先にあるこの看板が目印

〒963-0216
福島県郡山市中ノ目1丁目27－5
電　話：024－907－3816
メール：yukika-urara@ezweb.ne.jp
※予約制で営業しているため、営業日時等は、可能な限りお客様のご都合に合わせます。

※無料キャンペーン向けにアレンジした施術内容を基本とします。詳しくは、お問合わせください。

ぼくの夢・わたしの夢

いわき市立泉小学校６年　渡邉（わたなべ）　龍矢（りゅうや）くん（郡山）

ぼくは将来、人を助ける仕事がしたいと思っています。人を助ける仕事はたくさんあるけれど、今は「研究者」になりたいと思っています。

何年か前から、大きな地震や洪水、土砂崩れなどの大きな災害がたくさん起きています。そして、たくさんの人が被害にあって困ったり、悲しんだりしています。

だから、ぼくは災害の研究をして原因を調べたり、どうすれば被害を小さくできるかを見つけていきたいです。そうすれば、被害にあって困る人を少なくできるし、たくさんの人を助けることになると思うからです。

そのためには、たくさんの本を読んで色々な勉強をして、夢に向かって全力で頑張っていきたいです。

今月のベストスマイル

加須市で行われたタブレットコミュニティ集会に参加していた林日出子さん（細谷・右）と吉岡ハツイさん（新山・左）の笑顔です。

－編集後記－

８月になり、いよいよ夏本番を迎えました。太陽に向かって力強く咲くひまわりの花がより一層夏らしさを感じさせます。

今月の表紙は、町立小学校２学年の授業公開の様子です。協力して楽しそうに、そして意欲的に取り組む２人の姿を見ていて、少人数教育ならではの良さを感じました。

オリンピックに出場する渡邉一成選手の壮行会には、多くの方々が応援に駆け付け、渡邉選手へたくさんのエールを送りました。また、渡邉選手は今年５月にご長男が誕生し、さらにオリンピックでの活躍の原動力となることと思います。渡邉選手の活躍を祈り皆さんで応援しましょう。

また、壮行会のアトラクションで標葉せんだん太鼓保存会の皆さんによる演奏が行われました。何年ぶりかに聴く太鼓のリズムに、懐かしさ以上の感激があり、ずっと昔から聞いてきたものは身体が覚えているものだと感じました。

皆さま、暑い日が続きますが、お体に気を付けてお過ごしください。

連絡先

○**いわき事務所**　〒974-8212　福島県いわき市東田町二丁目19-4
☎ 0246-84-5200　FAX 0246-84-5212、0246-84-5213
✉ futaba@town.futaba.fukushima.jp

○**郡山支所**　〒963-8024
福島県郡山市朝日一丁目20番２号
☎ 024-973-8090
FAX 024-933-5120
✉ fukushima@town.futaba.fukushima.jp

○**埼玉支所**　〒347-0105
埼玉県加須市騎西36番地１　加須市騎西総合支所１階
☎ 0480-53-7780
FAX 0480-53-7266
✉ saitama@town.futaba.fukushima.jp

○**双葉町公式ホームページ**　http://www.town.fukushima-futaba.lg.jp/
携帯サイト　http://www.town.fukushima-futaba.lg.jp/m/
○**双葉町公式ブログ**　「ブログ　ふたばのわ」
http://futabanowa.wordpress.com/